



多世代が参加する市民講座で、進行役を務めた菊地さん。



体育の授業中、生徒にアドバイスをする庄司さん。



藤田さんをはじめ、地元の人々の思いが詰まった「りんく」。

それぞれが思う このまちと、私

このまちで活動している市内出身の3人に、生まれ育った地元への思いや今後の目標を聞きました。

オンライン座談会を行い、自分の活動や
地元への思いを発表し合いました

高校生



若者の熱意を
地元のために
きくち そうた
菊地 奏太 さん

黒磯南高校2年生。若者と地域をつなぐ「Your Dream」のプロジェクトに携わる。活動が県や市の補助事業に選ばれ、市民メディアにも出演する、今注目の高校生。

大学生



地元の子どもの
活躍が楽しみ
しょうじ ななか
庄司 菜々花 さん

宇都宮大学教育学部保健体育専攻3年生で、専門分野は学校保健。子どもたちが元気に学校生活を送る方法を研究しつつ、教員免許取得に向けて勉強に励んでいる。

社会人



地元の味を
守りたい
ふじた かつあき
藤田 克明 さん

このまちで35年間続く洋菓子店「菓子工房ねむの樹」の2代目。市商工会青年部では副部長を務め、「那須野ふるさと花火大会」の運営や地域貢献活動などに携わる。

このまちでどんな
活動をしていますか

地元で頑張ろうと思った
きっかけはなんですか

藤田

経営する洋菓子店で地元の中高生の職場体験を受け入れたり、若い経営者同士で集まって、まちを良くするために話し合ったりしています。

地元とのつながりを特に感じたのは、3年ほど前に「りんく」というクッキーを販売したことですね。この商品のモチーフは、本市の姉妹都市であるリンツ市発祥のお菓子。「姉妹都市の味を広めたい」と那須拓陽高校の生徒が発案し、当店でアレンジを加えて販売に至りました。

庄司

講義がない日に、母校の日新中学校で、学習支援員として授業を手伝っています。また、市と大学が連携した「市民参加による気候変動情報収集・分析事業」にも参加し、教育委員会へのヒアリングや、小中学校・義務教育学校を対象にしたアンケートの集計などを行いました。

菊地

「地域のために何か行動したい」という熱意のある若者と地域をつなぐ活動をしています。具体的には、同世代の学生を巻き込んで地域のお祭りを運営したり、「高齢者の買い物支援したい」という高校生の仲間を手助けしたりと、幅広く活動しています。また、情報発信にも興味があって、若者自身の思いや流行、若者から見たまちの魅力などを伝える地域メディアを立ち上げたいと思っています。

菊地

中学生のころ、職場体験で特別養護老人ホームに行ったことです。ある年配の女性が「若い人がいるといいね」ととても喜んでくれて、「地域のためにもっとできることはないか」と考えるようになり、ボランティアを始めました。その中で、高齢者支援を行う団体に出会い、地元で貢献したいという気持ちにより強くなりました。

藤田

大学生のときは県外で生活していて、家を継ぐことは、正直あまり考えていませんでした。しかし、いざ就職のことを考えると「せっかく家業があるなら、継がないともったいない。自分がやらないうち」と思うようになったんです。そこで、宇都宮市や都内の洋菓子店で修業を積み、地元に戻ってきました。

庄司

私はずっと市内に住んでいて、もともと「地元が好きだな」という気持ちがありました。特に影響を受けたのは、小学校と中学校で出会った2人の恩師です。時に優しく時に厳しく、母親のように見守ってくれるところにあこがれて、恩師と同じ大学に入り、このまちで教師を目指そうと思えました。

